

講演実施例

2014年

1. 金沢を去来した文人墨客

六浦荘は、鎌倉時代 瀬戸明神社や金沢北条氏の金沢文庫、称名寺を中心とする文教の地として、また、江戸時代には能見堂を中心とする観光地として、多くの文人墨客が去来しました。彼らは、この地で何を感得したのでしょうか。その足跡を探ります。

2. 朝夷奈切通異聞

朝夷奈切通は、中世には鎌倉への物流の道として、近世には観光の道として、約770年後の今、世界遺産として脚光を浴びる夢は消えたものの、その歴史的遺産としての存在価値は大きい。その開削の背景、変遷、伝承など、異聞も含め探索します。

3. 富岡の変遷

富岡の地は、明治・大正時代に多くの政治家や文人墨客に愛され別荘地として知られていました。富岡の魅力とその変化について、時代を追ってお話します。

4. 称名寺・金沢文庫の成立とその変遷

金沢北条氏の祖である北条実時が創立した称名寺と金沢文庫は、子の顕時、孫の貞顕に引き継がれて大きく発展しますが、鎌倉幕府の滅亡とともに衰退し往時の面影を失います。江戸の商人や明治の実業家たちの支援で命脈を保ち、現在に至った変遷を辿ります。

5. 六浦庄と縁辺の豪族達

鎌倉後背地としての六浦庄の地理的特性から、鎌倉支配権の争奪と縁辺の豪族による領域侵犯事件が散発しました。これら六浦を中心に繰り広げられた事件簿をひも解き、金沢理解の一助としたい。

6. 金沢の野仏たち

先人たちの深い思いを秘めてひっそりと路傍に佇む野仏、そして手向けられた一輪の花が今も我々の心を和ませます。江戸時代の庶民信仰の記念碑として庚申塔を中心に庶民の文化遺産として改めて見直してみましよう。

7. 金沢藩と東京湾沿岸防備

横浜市域を拠点とした唯一の大名である米倉氏については何故、拠点を六浦に移したかについて明確にされているわけではない。少ない資料の中から藩の活動も含めて、明らかになっている事実を述べます。

8. 金沢道とところどころ風土記

東海道保土ヶ谷宿の金沢横町より分岐して、蒔田・上大岡・栗木・中里・能見堂跡を経て金沢へ至る道を金沢道と呼ぶ多くの人が往来した「金沢道」。そのところどころに伝わる歴史や出来事を紹介します。

2013年

1. 貝塚から称名寺の時代へ

金沢は1万年前近くから人々が住み始め、今も鎌倉文化が漂っていると言われています。瀬戸神社の発祥・瀬戸橋の架橋・称名寺の創建と歴代長老審海・劔阿・湛睿についてお話します。

2. 龍に囲まれた日本・四勝将像

龍に囲まれた日本の周辺に異国・異界が広がっている重要文化財「日本図」、国宝「金沢北条氏四将像」そして近年別人説が主張される神護寺蔵「源頼朝像」について解説します。

3. 瀟相八景から金沢八景へ

中国の景勝地「西湖」畔で画かれた瀟相八景図は、室町将軍や信長など戦国武将の秘蔵品となり、やがて各地に拡がってご当地八景が創られます。金沢八景もその一つ。歌川広重の名品金沢八景図を読み解きます。

4. 筆捨松と西湖梅

平安時代の絵師巨勢金岡ゆかりの筆捨松のルーツは熊野古道にありました。北条実時が植えた西湖梅は、建長寺・江戸城・甲斐国に移植された中国伝来の銘木でした。

5. 武蔵国久良岐郡六浦荘の実相に迫る

武蔵国誕生から、倉楯屯倉、久良岐、久良岐郡へと変遷した南部蔵に焦点をあてるとともに、六浦荘で繰り広げられた盛衰の歴史を検証し、金沢に対する理解を深めましょう。

6. 武将たちの歩いた古道、白山道

鎌倉武士の鑑とされた畠山重忠ゆかりのななくそがみつかる古道、崖に彫られた磨崖仏や、やぐらの中の小さな白山社は、当時のままにこの道の歴史を語ります。

7. 歌川広重『武相名所旅絵日記』を見る

嘉永6年ペリー来航の年、広重は蜂須賀家の依頼で、武蔵相模の海岸を旅し、「武相名所手鑑」を差し出しました。この絵日記はその時の下絵で、旅の様子を気楽に描いた、楽しいスケッチ集です。

8. 『金沢七福神』に福運を求めて

福をもたらすとされ、日本でも昔から信仰されてきた「七福神」。そのルーツは日本古来のものから中国、インドなど多様です。そんな神様たちの由来をご存知ですか？

2012年

1. 六浦の瀬戸橋をめぐる歴史を訪ねる

中世のベイブリッジとも言われる瀬戸橋の背後に隠された謎と金沢八景の象徴となった橋、さらに六浦の海に沈められた悲しい子供達の話とは？

2. 横浜の開港は金沢から始まった、その経緯は？

“和親条約”で日本の開国は決まりました。そして、本当の開国(通商)は金沢から始まりました。その通商条約にかかわった“ハリス”と横浜開港の恩人“岩瀬忠震”の足跡をたどります。

3. 鎌倉の外港、六浦荘

鎌倉に幕府が開かれると、六浦の港は鎌倉の台所となり、金沢の歴史が始まります。武家の古都鎌倉の一部として朝比奈切り通しと称名寺は、世界遺産候補です。金沢北条氏が拓いた六浦荘を辿ります。

4. 江戸町民の行楽地 金沢

江戸時代に金沢は行楽地として賑わい、金沢八景や八名木など、美しい景観が「江戸名所図会」にも描かれました。瀬戸橋の近くに料亭が並ぶ当時の金沢に、タイムスリップしてみませんか。

5. 釜利谷の歴史&歴史・基礎の基礎

白山道にふれながら、中世釜利谷郷～近代六浦荘村へ、変遷の様子。プラスαとして、基礎の基礎(官位官職・郡郷名・公家と武士・五行説など)の話も少し。

6. 金沢北条氏五代の栄華と苦悩

評定家という鎌倉幕府の重職の家柄であった金沢家の成立から滅亡までを展望します。称名寺・金沢文庫の創立者実時、霜月騒動にまきこまれた顕時、15代執権となった貞顕らが登場します。

7. 金沢の六浦地区の歴史を中世よりたどります

鎌倉と結びつきが深かった六浦は“相洲六浦”として歴史に登場し、その後港湾都市として栄えました。江戸時代には“金沢八景の中心地”として賑わいました。その六浦地区の歴史をたどります。

8. 条約終結でアメリカへ行った咸臨丸の物語

小柴沖のポーハタン号艦上で結ばれた通商条約の批准の為にアメリカへ随行することとなった咸臨丸。苦難の航海と艦長“勝海舟”や“福沢諭吉”達が見たアメリカの姿と二人の宿命的対立とはなにか。

2011年

1. 謎の浄願寺から龍華寺へ

頼朝ゆかりの浄願寺は、上行寺東遺跡の地にあったとされています。その由緒を引き継いだ龍華寺創建までの輪郭を追ってみます。また釜利谷手子神社と伊丹氏の謎についてもふれます。

2. 江戸時代、金沢の殿さまたち

横浜唯一の大名米倉家が金沢全域を治めていたわけではありません。天領・旗本領・寺社領などによって構成されていました。江戸城最初の刃傷事件や能見堂再興に関わった殿さまたちも登場します。

3. 金沢の埋め立ての歴史をたどる

金沢は、埋め立てにより陸地の面積を大きく増やしました。泥亀新田の完成、そして平潟湾の埋め立てと続き、さらに金沢地先の埋め立てを経て現在の金沢が形づくられています。その変遷をたどってみます。

4. 金沢文庫の歴史と再建支援者達の物語

北条実時により鎌倉時代に建てられた金沢文庫。近代に入り伊藤博文により復興され、その後さらに事業家大橋新太郎の協力により近代的な文庫として再建されました。その歴史をたどってみます。

5. 称名寺浄土庭園と原点とその歴史

平安中期から、極楽浄土の姿を現世に具現化したと言われる浄土庭園の生まれた背景と、我が国最後と言われている称名寺浄土庭園の歴史をたどります。

6. 近代国家の礎を作った伊藤博文物語

周防国(山口県)に生まれ幕末の激動期にイギリスに留学し、維新後近代立憲君主国家の礎作りに貢献した伊藤博文の足跡をたどります。

7. 黒船来航とアメリカンカレッジ

ウェブスター島フィルモア崎とはどこでしょう。アメリカン・アンカレッジとは何でしょうか。ペリーの故郷とペリー家の人々にふれながら、黒船来航の話です。短い時間ですが、金沢に赴任した野口英世についてもふれます。

8. 茶の歴史と金沢

茶は平安初期に伝来しました。献上品・儀式の供養品・仙薬・賭事としての茶を経て、茶道へ発展しました。茶の歴史の中に金沢との関わりが登場します。特別な茶から日常茶飯事になるまでの歴史です。

2010年

1. 貝塚から金沢北条氏の時代へ

1万年前近くから人々が住み初め、今も鎌倉文化が漂っていると言われる金沢を眺めます。瀬戸神社の発祥、朝比奈切り通しの開削に触れながら、金沢北条氏と「吾妻鏡」との関わりとは？

2. 江戸町民の行楽地金沢

江戸時代に描かれた「江戸名所図会」や「金沢八景図」などを見ながら、江戸時代の金沢にタイムスリップして見ませんか。そして今の景観の中に、その面影を探して見ます。

3. 近代金沢の様相

風光明媚をうたわれた名勝の地金沢は明治末期ころから変貌しはじめます。金沢文庫の二人の恩人、「伊藤博文」と憲法・別荘、そして戦前の実業界の雄であった「大橋新太郎」に注目します。

4. 鎌倉武士たちの伝説と史実

朝比奈切通しと三郎義秀、大寧寺に伝わる源範頼(頼朝・義経の兄弟)の説話、そして釜利谷に伝わる畠山重忠・重保父子の墓。重忠の実像と虚像をさぐります。

5. 山吹の里伝説と太田道灌

六浦に小山若丸遺児と伝わる五輪塔があります。なぜ下野(栃木県)の武士の子の墓があるのでしょうか？金沢にも伝わる「山吹の里」と悲劇の名将太田道灌にふれます。

6. 能見堂と筆捨松

「御堂関白」と呼ばれた藤原道長が東国に下り、ここに庵を結んだとされる能見堂。京の絵師巨勢金岡もここを訪れ、絶景に筆を捨てたとされる「筆捨松」など、不思議な伝承がある金沢のルーツは？

7. 照手姫と小栗のロマン

一遍上人の開いた時宗の僧侶によって広まった「照手姫」伝説。姫の島公園や侍従川など、今に残る地名には、どんなロマンが秘められているのか？金沢の伝承を追います。

2009年

1. 六浦荘の始まり

鎌倉に幕府が開かれると、六浦の港は鎌倉の台所口となり、金沢の歴史が始まります。後半は称名寺と金沢文庫をつくった、「北条実時」の人物像に迫ります。

2. 金沢八景と瀟相八景(しょうしょうはっけい)

室町時代に中国から、水墨山水画「瀟相八景」が入って来て高く評価され、江戸時代にかけて各地にご当地八景が作られました。渡来僧「心越禅師」が命名した金沢八景もその一つ。

3. 釜利谷の白山道

白山社のあるこの地は、畠山氏に縁の鋳物師の街だったとされる。鎌倉にあった菩提寺の東光寺は此処に引き取られている。後半は鎌倉武士「畠山重忠」に迫ります。

4. 朝比奈の切り通し

朝比奈三郎が一夜で切り開いたとされる峠道で、塩の道でした。江戸時代、横浜唯一の大名、米倉藩は金沢に陣屋を構えました。後半は小泉純一郎氏の祖父「小泉又次郎」の実像に迫ります。

5. 観光地金沢八景の八名木と西湖梅

江戸時代、平和が続くと町民は旅を楽しむようになり、東海道を保土ヶ谷から横町へ入って金沢、江ノ島の観光ルートが賑わいます。金沢八景や八名木が持つ囃され、中国の「林逋」が植えた西湖梅もその一つ。

6. 富岡を愛し別荘を設けた著名人達

明治新政府の元老「三条実美」を始め多くの政治家や実業家や実業界の大物が、富岡や金沢に別荘を設けた。大正時代には電気が通り、日本画の川合玉堂は画室を設けます。昭和には電車が通り街が拓けて行きます。

7. 黒船来航とアメリカンアンカレッジ

なぜペリーは小柴沖を黒船艦隊の碇泊地(アメリカンアンカレッジ)としたのでしょうか。開港に至る状況とともに、ペリー像を概観します。併せて長浜検疫所に縁のあった「野口英世」にもふれます。

8. 金沢町・六浦荘村から金沢区誕生

塩田・漁業の金沢から、海軍航空技術支廠がつくられるなど、要塞地帯化された金沢へそして戦後の近代的街づくりが進められた金沢の移り変わりを眺めてみます。
